

平成 22 年度 システム生体工学科交流会およびオリエンテーション報告書

1. はじめに

今年度でシステム生体工学科が発足して四年目を迎えた。そこで、一年次から四年次までの学生および教職員との交流会を開催するとともに、例年どおり一年次の学生を対象としたオリエンテーションを実施した。各行事の日時、場所、参加人数は下記のとおりである。

第一回システム生体工学科交流会開催日時：5月20日（木）18時00分～19時30分
開催場所：前橋工科大学学生協食堂
参加人数：137人

オリエンテーション実施日時：6月3日（木）7時45分～20時45分
見学場所：NTT 先端技術総合研究所、アンリツ株式会社厚木本社およびアンリツグループ会社
参加人数：56人

2. 第一回システム生体工学科交流会

学生から学年間の交流の機会が欲しいという要望が出ていたことや、今年度から全学年がそろったこともあり、学科構成員全員の親睦を図る目的で、5月20日（木）18時から前橋工科大学学生協食堂において、一年次から四年次の学生および教職員との交流会を開催した。参加人数は137人であった。

学科長山根茂教授の挨拶、3年次学年担任の野村保友教授による進路を考える上での心得、今村一之教授の音頭で乾杯の後、食事をしながら懇談し、学生と教職員の親睦を図った。



交流会風景（前橋工科大学学生協食堂）

3. オリエンテーション

先端科学技術に触れさせることで一年生に夢を与えたいとの思いで、プロジェクト授業の一環として、オリエンテーションを6月3日(木)に実施した。見学場所は、NTT 先端技術総合研究所とアンリツ株式会社厚木本社およびアンリツグループ会社であった。

3.1 NTT 先端技術総合研究所

NTT 先端技術総合研究所では、研究所紹介ビデオ鑑賞の後、若手の研究者による「脳科学と情報伝達」と「将来のケータイのための回路部品の研究」と題する講演を聴講した。前者は錯覚から脳の情報処理を知るという内容で、聴講者が錯覚を体験できるように工夫されていた。後者は、ケータイがいろいろな周波数に同調できるような微細で新しい回路技術やケータイによる新しいナビゲーション技術の紹介およびそれらの実演がおこなわれた。さらに、人体通信の応用としての個人認証の体験や研究所で実施されている研究概要を学習した。

3.2 アンリツ株式会社厚木本社およびアンリツグループ会社

アンリツ株式会社では、厚木本社においてアンリツグループ紹介 DVD 鑑賞の後、アンリツ(株)ショールーム、アンリツ産機システム(株)テストルーム、アンリツテクマック(株)板金工場、アンリツ興産(株)リサイクルセンターを見学した。これらの見学では、最先端の通信を支える技術やアンリツ株式会社製品の歴史の学習、X 線を用いた検査装置や高速な品質管理システム等の見学、電子機器の金型製造過程の見学、そして電子機器のリサイクルのための考え方を学習した。



NTT 先端技術総合研究所正面玄関にて



人体通信による個人認証の説明
(NTT 先端技術総合研究所)



施設見学の説明（アンリツ株式会社厚木本社）

4．まとめ

システム生体工学科では初めての試みとして、全学年の学生と教職員との交流会を開催した。多数の学生諸君の参加が得られ、親睦が図られたことは大変喜ばしいことである。今後もこのような交流会を開催したい。

オリエンテーションでは、早朝から夜間までの長時間のスケジュールであったが、好天に恵まれ無事に帰ることができた。普段触れることのない先端科学技術の学習と体験ができ、またそれを支える技術を見聞することができたことは、学生諸君にとって大変有意義な一日であったと思う。さらに、学生と教職員との親睦を図ることができ、オリエンテーションの目的は達成されたと感じている。

5．謝辞

今回のオリエンテーションと交流会を実施するにあたり、多大なご支援を賜った前橋工科大学後援会に感謝申し上げますとともに、ご協力をいただいた NTT 先端技術総合研究所、アンリツ株式会社厚木本社およびアンリツグループ会社の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成 22 年 6 月 8 日

システム生体工学科

学 科 長 山 根 茂

一年次担任 朱 赤、岡田富男